

8. 地域創生

8.1 地域創生委員会

委員長：川島 和代 教授

委員：浅見教授（特任教授兼アドバイザー）、垣花准教授、谷本准教授、出村事務局長

事務局：宮川主任主事

活動内容：

1. 地域創生にかかわる活動について

平成28年度の本学委員会組織の改変により本学の地域創生事業を所掌する委員会として「地域創生委員会」が新設された。次の2つの班（部会）との連携を図りながら各事業を統括している。次年度より事業班を統合して「地域創生委員会」として活動することとなった。

1) 地域創生委員会の活動

大学間連携共同教育推進事業「学都いしかわ課題解決型グローバル人材育成システムの構築」は、石川県における高等教育機関 19の大学・短期大学・高専（大学コンソーシアム石川加盟校）統括本部をもって構成され、事業推進責任は金沢大学が所掌している。

平成28年度にて文部科学省補助金事業の「大学間連携共同教育推進事業」は終了したが、大学コンソーシアム石川内に「グローバル人材育成・共創インターンシップ専門部会」が設置され、事業は継続となった。次年度より本学内でも名称変更が必要である。

本学では、学内授業を『学都いしかわ課題解決型グローバル人材育成プログラム』のスタンダードリストに搭載すること、民泊型フィールド実習の継続、海外研修（タイ チェンマイ大学看護学部、韓国全北大学看護学部等へ隔年で研修）等の実施、その他地域ボランティア等に取り組んだ学生活動をHHC科目で認定するなどの活動を継続している。平成30年度はグローバル・ヤングリーダー 4名を輩出した。

2) 能登キャンパス構想推進協議会事業班（8.2と重複あり）

能登キャンパス構想推進協議会（石川県、金沢大学、石川県立大学、石川県立看護大学、金沢星稜大学、珠洲市、輪島市、能登町、穴水町で構成、事務局は輪島市）を組織し、高等教育機関のない奥能登地区をキャンパスと捉え学びの場とすることで能登の活性化（交流人口の拡大や若者の移住・定着等）を目的とした能登キャンパス構想推進協議会に本学が正式加盟して8年目である。今年度は「能登・祭りの環」事業において能登町矢波地区の希望を受けて本学がコーディネートを担当した。1年次の授業でPRするなど担当者の工夫により参加総数21名に上った。また、大学祭に能登地区の病院紹介ブースを設ける活動に取り組んだ。

3) COCプラス事業班（8.3と重複あり）

本事業は平成27年度文部科学省が募集した地（知）の拠点大学による地方創生推進事業（COC+）に金沢大学が中心となって応募した「金沢・加賀・能登で地域思考型教育による夢と志を持つ人材育成」が採択され、本学も参加校として予算措置を受けた。

平成30年度、「グローバル人材育成・共創インターンシップ専門部会」の委員として事業に参加し、他大学の共創インターンシップの成果報告やプログラムの採択に加わった。

8.2 能登キャンパス構想推進事業

実施団体名

能登キャンパス構想推進協議会：

石川県、金沢大学、石川県立大学、石川県立看護大学、金沢星稜大学、珠洲市、輪島市、能登町、穴水町

概要

高等教育機関のない奥能登地区をキャンパスと捉え学びの場とすることで能登の活性化（交流人口の拡大や若者の移住・定着等）を目的とした能登キャンパス構想推進協議会に本学が正式加盟して7年目である。本協議会は、石川県(能登半島地震復興基金)、上記4大学、奥能登2市2町が出資して運営している。事務局は珠洲市である。本事業の運営のために本学は年間300千円の運営費を負担している。

8.2.1 能登キャンパス構想事業班

班 長：谷本 千恵 准教授

班 員：牧野教授、垣花准教授、市丸講師、出村事務局長

事務局：宮川主任主事

活動内容：

1. 協議会・幹事会の出席

協議会2回、幹事会4回開催があり参加した。

2. 事業班の活動内容

1) 平成29年に設置した教育研究棟2階の能登地区紹介コーナーは、平成30年度にはさらに拡充して充実を図った。また大学祭に能登地区の1病院の看護部紹介ブースを設ける活動も継続したが、参加病院が減り、今後の課題である。

2) 「能登・祭りの環」インターンシップ事業（当日・短期）「能登町・矢波諏訪祭り」について、インターンシップの準備・広報及び引率をおこない学生9名の参加があった。「能登・祭りの環」全体としては、本学の参加者は21名（3年6名、2年6名、1年9名）であった。1年次の授業で紹介するなどの工夫の効果がみられたと考える。引率教員の固定化を避けるため公募することとなった。

3. 今後の事業班の活動について

次年度以降の当該事業班は、上部委員会「地域創生委員会」に統合され、共に活動することとなった。

外部報告

該当なし

外部資金

該当なし

8.3 地(知)の拠点大学による地方創生推進事業(COC+)

実施団体名

(参加大学) 金沢大学、金沢工業大学、石川県立看護大学、石川県立大学、金沢星稜大学、北陸大学、金沢学院大学、金城大学、(協力大学) 7校

(自治体) 石川県はじめ県内すべての自治体20

(企業・団体) 企業・団体18

概要

本事業は文部科学省が募集した地(知)の拠点大学による地方創生推進事業(COC+)に金沢大学が中心となって応募した「金沢・加賀・能登で地域思考型教育による夢と志を持つ人材育成」が採択された。本事業の目的は、地方創生の鍵となる若者の定着と産業と地域の活性化をめざし、グローバルな視点で地域を思考できる学生を育成し、地方創生を担う次世代の人材の輩出、また、地域関係機関(企業・自治体等)と連携した雇用創出を含む地域定着モデルの構築である。平成31年度までに石川県内の学生の就職率10%向上、うち10%は起業等による雇用創出をめざす数値目標を掲げている。

8.3.1 COCプラス事業班

班 長：垣花 渉 准教授

班 員：田村助教、金子助教

事務局：宮川主任主事

活動内容：

1. 事業班の活動

平成30年度、石川県立看護大学は特に積極的な活動には至らなかった。大学コンソーシアム石川内の専門部会「グローバル人材育成・共創インターンシップ専門部会」の委員(川島)が、他大学の共創インターンシップの成果報告やプログラムの採択に加わった。

2. 今後の事業班の活動について

次年度以降の当該事業班は、上部委員会「地域創生委員会」に統合され、共に活動することとなった。

外部報告

該当なし

外部資金

該当なし